

岸田外務大臣の第50回ミュンヘン安全保障会議出席

2月1日、岸田外務大臣は、ドイツのミュンヘンにおいて開催された第50回ミュンヘン安全保障会議に出席しました。今回の会議には、閣僚級を中心に60か国以上、10を超える国際機関の長等要人が参加し、欧州のみならず、各地域及びグローバルな安全保障問題について幅広い議論が行われました。

岸田大臣は、1日午前中の「グローバル・パワーと地域の安定」のセッションに参加し、議論を総括して15分程度の発言を行いました（[総括発言全文](#)）。

岸田大臣は発言の中で、次の50年を念頭に世界の安全保障情勢を俯瞰しつつ、日本のビジョンである「国際協調主義に基づく積極的平和主義」について、我が国の具体的な取組（アフリカ、中東、ASEAN、国連PKO、核軍縮・不拡散、法の支配の強化など）を紹介しつつ、日本が地域と世界の平和と安全にこれまで以上に積極的に寄与していく決意を表明しました。

なお、中国側参加者より、日本の指導者が歴史を否定しているとの発言がありました。これに対し、岸田大臣より、日本は歴史を直視し、先の大戦や植民地支配について、反省の気持ちを明確に表明していること、日本は、戦後一貫して、東アジアにおける自由、民主主義、人権、法の支配を擁護し、地域と世界の平和と繁栄に貢献してきており、今後も平和国家としての道を歩んでいく旨述べました。

今次会合への岸田大臣の参加は、日本の安全保障政策について国際的に発信する良い機会になりました。特に、日本が戦後一貫して、平和国家としての道を歩んできたこと、日本の安全保障政策もこれまでの日本の歩みの延長線上にあることについて、参加者から十分な理解が得られました。